

雜 錄

燃料協會創立三週年記念大會 大正一一年六月二十四日を以て呱呱の聲を上げたる燃料協會に於いては創立以來燃料動力問題が國防上、國家經濟上將又國民生活上如何に重大なる意義を有せるかに關し或は講演に或は會誌によりて極力之れが闡明に努力する所ありしが恰も本年六月は創立滿三週年に相當せるを以て之を記念すると同時に此際廣く燃料動力問題の緊要なる事を世に訴へんが爲め六月二十七日午後一時半より丸の内帝國鐵道協會に於いて記念講演大會並に懇親會を開催せり

記念講演大會 當日は近來稀なる快晴にて定刻前會場三階の大講堂は既に多數の聽衆を以て滿たされ、協會側より吉村理事長、箱石常任理事、伊木、日下部、田中、内藤、水田、水谷、米倉の各理事以下主事、來賓側にては當日の講演者たる秦商工省政務次官、後藤子爵、大河内子爵、内藤日石社長を首め大橋陸軍省兵器局長、小林海軍省軍務局長、金原地質調査所長、大島燃研所長、加茂朝鮮燃研所長、藤野工業化學會長、工學博士高松豐吉氏其他多數官民、各新聞通信記者諸君の出席あり定刻吉村理事長開會を宣し左記の順序にて開催せられたり

- | | | | |
|--------------------|---------------|--------|-----|
| 開會の辭 | 燃料協會理事工學博士 | 米倉 | 清族君 |
| 内燃機關に於ける油の燃焼に關する研究 | 理化學研究所長工學博士子爵 | 大河内正敏君 | |
| 燃料政策の確立 | 商工省政務次官 | 秦 | 豐助君 |
| 人生と燃料問題 | 子爵 | 後藤 | 新平君 |
| 石油坑道掘に關する所慮 | 日本石油株式會社々長 | 内藤 | 久寛君 |
| 閉會の辭 | 燃料協會理事長 | 吉村 | 萬治君 |

因に當日は聽衆約三百に達し五時すぎ盛會裡に閉會したり、當日講演要旨左の如し

▲内燃機關に於ける油の燃焼に關する研究

理研所長工學博士子爵 大河内正敏君

内燃機關の代表的型體三種即ガソリン・エンジン、ホットバルブ・エンジン、及ディーゼル・エンジンを擧げ各其の特徴機構を説明する處あり而して之等の諸機關内に於て燃料が如何なる有様に燃焼するやに就き研究する目的を以て種々の液體燃料を以て左の如き測定を試み其の結果を發表せられたり即ち(一)常壓及高壓に於ける液體燃料の發火點並發火に至る時間(ワルテン・ツァイト)の測定、(二)各種溫度及壓力に於ける平面上の液體燃料蒸發時間の測定(三)恒容燃焼試験(四)燃焼速度の測定(五)燃料油が氣管に噴霧せらるゝ場合の狀況の測定等に就き述べられたり

▲燃料政策の確立

商工省政務次官 秦 豐 助君

國力の充實と國民生活の安定とは政治の目的にして其の中武力の方面に於ては既に略完成せらるゝも産業の振興に就ては今後大なる努力を要する處あるは明なり其の一道具として燃料問題は甚だ重要にして而かも尙其の政策の確立を見ず吾人は本問題解決の爲には水力電氣事業を起し、山林の亂伐を防止し、瓦斯事業を擴大し、石炭採取法の改善並びに鑛區整理を行ひ更に泥炭、褐炭の利用法を考究し併せて燃料運輸方法の改良或は石油坑道掘の採用其他低溫乾餾、油頁岩工業等よりの新燃料或は代用燃料の研究、石炭業者の聯絡合同及燃料資源調査等に努力するを要す

要之に我邦の現状に鑑み燃料政策を確立せしむる事は頗る重大にして一日も早く其目的を達すべく各人の努力を要すと説けり

▲人生と燃料問題

子爵 後藤 新平君

燃料問題は獨り専門家のみに委すべきに非ず人類一般の大に考慮すべき問題なり燃料は單に石油の類に限られず之等は體外燃料にして尙他に體内燃料あり人類は體内燃料に依り生活すべきものにして之何れもサイアンス

なり、サイアンスを知らずして完全なる政策法律の作らるゝことなしと述べ燃料知識の人類生活に頗る緊切なるを説き更に轉じて石炭石油の問題に移り其經濟的利用は世界共同生存の見地よりして考ふべく又其化學的性質は精査すべきものなるを指摘し最後に燃料に對する觀念が未だ一般的且實際的ならず是等はすべて一部の人士のみに依りてのみよく解き得るものに非ず多くの人の力に依るを要すと結べり

▲石油坑道掘に關する所感

日石社長 内藤 久 寛君

歐洲大戰中獨逸は一滴の石油も之を地中に残さじとて石油坑道掘に成功せり其衝に當れる技師シュナイダー氏は目下來朝中にして本邦各油田に就きても巡回調査する處あり坑道掘を實行するや否やは別問題とし茲に其不可を論ずるは暫く措き本邦油田に就て一般傳へらるゝ所を見るに石油埋藏量の甚だ貧弱なるを憂ふる爲めか昔も今も悲觀論者多きが如し然れども本邦に於ける採油事業は左程に早く見極むべきものに非ず實際の仕事は猶今後にあるべしと述べてオクラハマ油田の例を引きて樂觀論を唱ふ、然れ共石油政策の確立は今日最も急務にして之無かりしが爲め今日迄多くの好機を逸せる事を述べ一日も早く石油政策を確立し石油の供給を潤澤にせざる可からず斯くして其の國家は世界の優者たるを得るなりと結べり

懸賞論文募集

燃料協會にては創立三週年記念日に方り三百圓の賞金を懸けて『燃料問題の重要なことを一般國民に知らしむる論文』を廣く募集し、之れによつて記念會をして更に一層意義あらしめんとする企をなし、記念講演會當日吉村理事長は閉會の辭を述べたる後之れが發表をなしたり、其の詳細左の如し

燃料協會創立三週年記念懸賞論文募集

一、募集論文題目

燃料問題の重要なことを一般國民に知らしむる論文

一、賞金 一等貳百圓(一人) 二等百圓(一人)

一、審査員(五十音順)

雜 錄

- 燃研所長工博 大島 義清君 工學博士 日下部義太郎君
- 東大教授工博 田中 芳雄君 燃料協會理事 辻元 謙之助君
- 早大教授理博 徳永 重康君 燃料協會理事 箱石 朝政君
- 工學博士 米倉 清族君
- 一、締切期日 大正十四年九月三十日
- 一、應募規定
- (イ)文體、隨意とす
- (ロ)字數、二十四字詰十二行原稿用紙五十枚以内とし、明瞭に記るすこと
- (ハ)應募者姓名 應募者は住所、職業、姓名を明記せる別紙を論文に添付し、本文には姓名を記入せざること、且右別紙には論文枚數を明記すべし
- (ニ)論文の遞送、埼玉縣川口町燃料協會宛、書留たること
- 封筒には『懸賞論文』と朱書すること
- (ホ)受入れたる論文は事由の如何に拘らず返戻せざるものとす
- 一、審査の發表

大正十四年十二月二十日發行の燃料協會誌上に於て (以 上)

懇親會 記念講演會後午後六時半より帝國鐵道協會大食堂に於て開催、主客合せて約百名頗る盛況を極めたり宴半にして左の如きテーブル・スピーチあり和氣瀟々裡に八時半過解散せり

吉村萬治君 近來流行する財政緊縮の事實が本夕の宴會にも現はれて誠に粗糞で申譯御座いませぬ、併し今日の講演會では大河内子爵を首めとして講演者諸君の色々味のある御馳走がありましたから其の味を御賞玩あられて御勸辯を願ひ度いと思ひます、今日の御講演者四名のうち三名の方は不思議にも燃料研究所と深い關係を有せられる事を御披露申し上げ度いと思ひ